

ロシア・東欧学会 *Newsletter* No.7

The Japanese Association for Russian and East European Studies

『ロシア・東欧学会年報「ロシア・東欧研究」』原稿募集

論文, 研究ノート, 書評, 資料紹介の原稿を募集しています。応募締切は12月15日, 原稿締切は翌年4月30日です。そのほか詳しいことはロシア・東欧学会ホームページの会則・諸規程のページないしは年報第30号(2001年版)巻末の「投稿規程・執筆要領」をごらん下さい。

投稿申込先・原稿送付先

〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

総合政策学部 香川敏幸

Tel: 0466-49-3491 E-mail: kgw@sfc.keio.ac.jp

第32回(2003年度)大会 京都産業大学で開催される

2003年10月4日(土)・5日(日), 京都産業大学で第32回(2003年度)大会が開催されました。

10月4日(土)の共通論題は、「ロシア・東欧における社会格差・経済格差 - 体制転換とグローバル化の結果を探る - 」と題して, 以下のようなプログラムで開催されました。

なお, 大会第1日目の10月4日(土)には, プログラムにあるように昼休みに2003年度理事選挙当選者会合および全体討論終了後に総会(第1部)が行われました。

またさらに, 総会終了後18:00から, 会場のある神山(こうやま)ホール・ラウンジにて恒例の懇親会が行われました。懇親会には70名ほどの会員が参加し, 食事やお酒をいただきながら, うち解けた雰囲気の中で賑やかに行われました。

2003年10月4日(土)大会第1日目

共通論題プログラム

- ロシア・東欧における社会格差・経済格差
- 体制転換とグローバル化の結果を探る -
- 第1部「ロシアにおける社会格差・経済格差」
(座長)宮本勝浩(大阪府立大学)
- 10:00-10:50 第1報告
(報告)溝端佐登史(京都大学)
「ロシアにおける経済格差」
(討論)上垣彰(西南学院大学)
- 10:50-11:40 第2報告
(報告)保坂哲郎(高知大学)
「ロシアにおける社会格差」
(討論)袴田茂樹(青山学院大学)
- 11:40-13:40 昼休み(理事当選者会合)
- 第2部「東欧における社会格差・経済格差」
(座長)家本博一(名古屋学院大学)
- 13:40-14:30 第1報告
(報告)吉井昌彦(神戸大学)
「中・東欧における経済格差」
(討論)小山洋司(新潟大学)
- 14:30-15:20 第2報告
(報告)六鹿茂夫(静岡県立大学)
「東欧における社会格差 - グローバリゼーションと中東欧:ルーマニアとモルドヴァの場合 - 」
(討論)羽場久子(法政大学)
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:45 全体討論
- 16:50-17:50 総会(第1部)
- 18:00-20:00 懇親会

翌10月5日(日)の自由論題は、午前・午後それぞれ2会場、全体として4つの分科会に分かれて、以下のようなプログラムで行われました。

自由論題分科会では、大学院生を含む主として中堅・若手の会員による報告に対し、討論者を初めとする会員諸氏による熱心な議論が行われました。

なお、大会第2日目の10月5日(土)には、プログラムにあるように昼休みに2003年度第2回理事会および総会(第2部)が行われました。

2003年10月5日(日)大会第2日目

自由論題プログラム

午前の部・第1会場

(座長)小澤治子(新潟国際情報大学)

9:30-10:15 第1報告

(報告)井手康仁(慶應義塾大学大学院)

「ソ連の対日政策 - チャンネルと対日観を中心として - 」

(討論)木村汎(拓殖大学)

10:15-11:00 第2報告

(報告)乾一宇(日本大学)

「ロシアの安全保障政策決定機構 - 安全保障会議を中心に - 」

(討論)小泉直美(防衛大学校)

11:00-11:45 第3報告

(報告)兵頭慎治(防衛研究所)

「ロシア連邦の安全保障会議の機能と役割」

(討論)永網憲悟(亜細亜大学)

午前の部・第2会場

(座長)丹羽春喜(大阪学院大学)

9:30-10:15 第1報告

(報告)富山栄子(新潟大学大学院)

「日本企業のロシアへの輸出マーケティングにおける流通経路の特質」

(討論)中津孝司(大阪商業大学部)

10:15-11:00 第2報告

(報告)井上武(神戸大学大学院)

「移行期の小国開放経済における金融政策に

関する一考察 - チェコ・ポーランド・ハンガリーにおけるインフレーションターゲットング - 」

(討論)田中宏(立命館大学)

11:00-11:45 第3報告

(報告)後藤富士男(京都産業大学)

「体制維持と改革のジレンマに直面する北朝鮮経済」

(討論)大野喜久之輔(大野都市再生研究所)

11:45-13:45 昼休み(理事会)

13:45-14:00 総会(第2部)

午後の部・第1会場

(座長)宇多文雄(上智大学)

14:00-14:45 第1報告

(報告)荻野晃(大阪外国語大学)

「ハンガリーにおけるポスト共産主義時代の国防軍改革」

(討論)松井弘明(大東文化大学)

14:45-15:30 第2報告

(報告)藤森信吉(北海道大学)

「アメリカの対ウクライナ政策」

(討論)斎藤元秀(杏林大学)

15:30-15:40 休憩

15:40~16:25 第3報告

(報告)浅村卓生(東北大学)

「ウズベキスタンにおける演劇文化と政治」

(討論)川端香男里(川村学園女子大学)

16:25-17:10 第4報告

「N. S. トゥルバツコイのユーラシア主義 - 『国民国家』批判の視点に注目して - 」

(報告)浜由樹子(津田塾大学大学院)

(討論)中村裕(秋田大学)

午後の部・第2会場

(座長)皆川修吾(愛知淑徳大学)

14:00-14:45 第1報告

「ロシアとEU - 共通経済圏は可能か - 」

(報告)粟田聡(慶應義塾大学大学院修了)

(討論)香川敏幸(慶應義塾大学)

14:45-15:30 第2報告

(報告)大塚昌克(早稲田大学大学院)
「1989年の東ドイツにおける体制崩壊 - 方法論的個人主義モデルによる説明 -」
(討論)林忠行(北海道大学)

15:30-15:40 休憩

15:40-16:25 第3報告

(報告)松本かおり(大阪大学大学院)
「現代ロシア社会の労働観に関する一考察 - 若年層の職業意識の検討を中心に -」
(討論)大津定美(大阪産業大学)

16:25-17:10 第4報告「犯罪統計を通してみる

(報告)村井淳(関西外国語大学短期大学部)
「ロシアの社会変動 - ソ連崩壊から 21 世紀のロシア:1980年代~2001年 -」

第32回大会の議論から

共通論題および自由論題の各セッションの座長を務めていただいた宮本勝浩,家本博一,小澤治子,丹羽春喜,宇多文雄,皆川修吾の各会員に,それぞれのセッションの議論の概要を書いていただきましたので,ここに掲載いたします(なお,編集段階で若干の字句の修正をしています)。なお,共通論題の報告については,各報告者により執筆される論文が,来年度発行されるロシア・東欧学会年報『ロシア・東欧研究』第32号に掲載される予定です。

共通論題・第1部の概要

第1報告・溝端佐登史会員(京都大学)の「ロシアにおける経済格差」の報告趣旨は以下の通りである。(1)体制転換とグローバル化により,ロシアの国内経済格差,国際的経済格差はともに拡大している。(2)社会主義国の経済移行により経済格差が拡大した原因は,自由化,民営化などの経済政策により勝者と敗者が明確化したこと,民営化などのスタート時に特権を持っていたかどうかなどの初期条件に差があったこと,統治の方法や信頼される国家形成に失敗し

たことなどであった。(3)ロシアにおいて経済格差の拡大があったにもかかわらず国民の不満が爆発しないのは,国内の所得・資産格差の拡大に対する国民の不満のアブソーバーを内包していたからである。(4)短期間で経済格差が収束する可能性は少ない。

溝端会員の報告に対して,上垣彰会員(西南学院大学)は,(1)国内の経済格差は拡大したとの報告であったが,体制転換により国民の最低生活レベルは向上したのか?(2)クズネツの逆U字型学説はロシアでは成立するのか?などの問題が提起された。溝端会員は最初の質問には肯定的であり,後者の問題は未検討であると答えた。

第2報告・保坂哲郎会員(高知大学)の「ロシアにおける社会格差 - 1990年代人口動態と社会格差 -」の報告要旨は以下の通りであった。(1)ソ連邦解体により国外からの人口流入は400~450万人であった。(2)1994年前後は農村への人口流入が多かったが,2001年には都市への人口流出で,農村部の人口増加率はマイナスとなっている。当初はソ連崩壊による失業などで,都市で就業することが困難となり,農村部へ人口が流れたが,経済が安定してくると,就業や高賃金の機会が期待できる都市部への移動が生じたのである。(3)とくにモスクワ州+モスクワ市への人口集中は著しい(4)平均余命が驚くほど低い。

保坂会員の報告に対して,袴田茂樹会員(青山学院大学)は,(1)国レベルでは人口問題をどう捉えるべきなのか?(2)ロシアで最近実施された国勢調査は信頼性があるのか?などの問題が提起された。保坂会員は,人口は国家形成の基本であり,人口問題を通して社会格差,経済格差を見ることができるので人口問題は重要である,そしてロシアの国勢調査の信頼度は高くはないかも知れないが,それなりに分析の重要な資料となるであろうと答えた。(宮本勝浩)

共通論題・第2部の概要

吉井昌彦会員(神戸大学)による第3報告「中・東欧における経済格差」では,経済格差に関する3

つの分類（国内での格差，国家間での格差，中・東欧地域とEU加盟諸国での格差）のうち，前二者の経済格差に焦点を当てた上で，その現実と格差是正のための潜在的な可能性という点について実証的に論じている．また，本報告は，第3の経済格差を是正するためのEU支援が第2のそれを是正するものとなりうるかという点についても，検討を加えている．

報告者は，まず，EU加盟候補国の一つである小国エストニアを取り上げ，小国の場合であっても，国内での経済格差は存在し，それは，所得，雇用などといった様々な指標によって確認することができるかと論じている．次に，中・東欧諸国についての国家間格差の問題に言及し，経済格差の現実を明らかにした上で，そうした格差が何ゆえ生じたのかという点について論じている．その際，報告者は，市場経済移行の初期条件，政策の進展，社会主義時代の市場要素導入の試み，資源の保有状況といった要因を挙げ，それぞれについてその内容を明らかにしている．更に，経済格差の是正に関しては，人間開発指数HDI，成長競争力指数GCI，海外直接投資という3つの要因に着目した上で，中・東欧では，中東欧諸国の成長ポテンシャルが大きいことを確認し，中・東欧地域での経済格差が当面拡大することを論じている．

吉井報告に対しては，小山洋司会員（新潟大学）からコメントと私見が述べられた．その際，とくに，国内での経済格差の要因として歴史的な要素をもう少し検討する必要があるのではないかとの見解が示された．

六鹿茂夫会員（静岡県立大学）による第4報告「グローバリゼーションと中東欧・ルーマニアとモルドヴァの場合」は，中東欧について言えば，グローバリゼーションが民主化を促進したという点に着目した上で，中東欧各国のグローバリゼーションへの反応，グローバリゼーションと領土主権国家および民族紛争との関係について論じることによって，社会・政治状況に見られる格差現象を傍証の形で示そうとしている．その際，六鹿

報告では，報告者の観点からこうした問題意識を最もはっきりと示してきた国々として，ルーマニアとモルドヴァという2カ国を選択し，これら2カ国の体験と現実の推移を説明の手掛かりとしている．

六鹿報告は，グローバリゼーション，EU基準化，新自由主義化という3つの基本動向に焦点を当てた上で，ルーマニア，モルドヴァの2カ国にとってのこれら3つの動向が何をもちたらし，何を意味していたのかを明らかにしようとしている．そして，報告者は，自由化，開放化，民主化という3つの潮流が一元的なものとして移行の一律化を促したのではないかと提示している．その際，農業問題に言及し，こうした一律化の動きに真っ向から対立するものとして，農業問題，あるいはEUとの農業問題交渉が帰趨を決する重要な要因となりうることを示唆している．

六鹿報告に対しては，羽場久シ尾子会員からコメントと意見が示された．その中で，羽場会員は，ハンガリーの動向に言及しつつ，グローバリゼーションの中東欧各国への現われ方，中東欧各国での理解や意識の仕方という要因を取り上げた上で，グローバリゼーション，EU基準化，新自由主義化それぞれの異同点を明らかにする必要があるのではないかとの意見を示した．

（家本博一）

自由論題・午前の部第1会場の概要

第1報告は，井出康仁会員（慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程在学中）により「ソ連・ロシアの対日政策 - システムの変化とチャンネルを中心として - 」という論題で行われた．同報告は，ソ連，ロシアの政治システムの変化により，知的共同体の中に一定の競争が発生し，その結果大統領に新しいアイデアを提供する entrepreneur（企業家，起業家）が政策形成過程において重要な位置を占めるようになったことを，ソ連・ロシアの対日政策において役割を果たしてきたコワレンコ，クナーゼ，プリマコフを事例に検証を行うものであった．同報告に対して木村汎会員（拓

殖大学)より、日ソ、日ロ関係の分析に新しい枠組みが提起されたことを評価する一方、チャンネルの定義が曖昧であること、また上記の3名のみを対日政策形成過程の分析に取り上げることの問題点が指摘された。さらに会場からは袴田茂樹会員(青山学院大学)より、本研究の趣旨にクナーゼを取り上げることは妥当であるとの見解が示された。

第2報告は、乾一宇会員(日本大学)により、「ロシアの安全保障政策決定機構 - 安全保障会議を中心に - 」という論題で行われた。同報告は、安全保障会議の機構、組織、また役割を分析した結果、ロシアの安全保障機構の法と制度については確立された反面その活動には限界があることが明らかにされた。同報告に対して小泉直美会員(防衛大学校)より、政策決定機構全体における安全保障会議の役割、また大統領府との関係について問題提起が行われた。

第3報告は、兵頭慎治会員(防衛研究所)により、「ロシア連邦の安全保障会議の機能と役割」という論題で行われた。同報告は、安全保障会議の機構、組織、役割を分析した結果、ロシアの政策決定過程において安全保障会議が果たす役割は大きく、それゆえに対外政策における転換が可能になっていると指摘する。同報告に対して永綱憲悟会員(亜細亜大学)より、安全保障会議を分析する際にどのような資料を利用するかが重要であること、また法制度面で整備が行われていることが必ずしも政策決定過程において重要な役割を果たしているとは限らないという指摘が行われた。

第2報告、第3報告は、ともにロシアの政策決定過程における安全保障会議の役割をテーマとしたものであり、その役割の限界を重視する乾会員に対して、兵頭会員は役割を高く評価する。2つの報告に対して会場からも多数の意見が寄せられ、この問題の重要性を示唆するものであった。

(小澤治子)

自由論題・午前の部第2会場の概要

午前の部の第2会場においては、ロシア、東欧、ならびに、北朝鮮についての、いずれも経済に関する3つの研究報告が行われた。

富山栄子会員(新潟大学大学院)の第1報告は、日本企業のロシアへの輸出マーケティングの問題を取り上げ、近年のロシアにおける複雑な流通経路の特質と、それに対する日本企業の対応を明確に分析したものであった。

井上武会員(神戸大学大学院)の第2報告は、開放市場経済への移行期にあるロシアその他旧ソ連領諸国や中・東欧の国々、とりわけチェコ、ポーランド、ハンガリーにおけるインフレ・ターゲット政策の効果を、新古典派的な経済理論的パラダイムを踏まえた計量的パネル・データ推計によって分析したものである。

後藤富士男会員(京都産業大学)の第3報告は、入手可能な情報がきわめて乏しいという制約を克服するために、貿易相手側の輸出入データを利用して、それを詳細に分析するという方法論的な工夫をこらすことにより、北朝鮮経済の現状を可能なかぎり詳細に分析し、あわせて、北朝鮮の体制の今後の動向をも展望したものであった。

3報告とも、よく準備された優れたプレゼンテーションであり、予定討論者の中津孝司、田中宏、大野喜久之輔の3氏の討論も充実した内容のものであった。フロアからの質問やコメントも有意義なものが多かった。

ただ、経済学プロパーの学会ではなく、学際的な会員構成を持つ本学会のような場合には、第2報告(井上武会員)のごとく新古典派の経済理論的パラダイムに特化した(そして、かなりソフィステートされた)方法論での報告のようなケースでは、その方法論的な特異性についての解説が、より平易になされるべきであったと思われる。

(丹羽春喜)

自由論題・午後の部第1会場の概要

自由論題の部門には多種多様な発表希望が寄せられたうえ、発表者や討論者の日程上の都合も

あったため、ひとつの会場に一定のテーマの発表をまとめるのは困難であった。このセッションの内容も多岐にわたり、セッションとしてのまとまりはなかったが、それは各発表の価値を減じることにはならず、出席者はむしろ多様な地域と領域をカバーする本学会の特徴を楽しんだといえよう。また、発表者がいずれも博士課程修了前後の若い研究者であったことは、学会の活気を高めるものであった。

荻野晃会員の第1報告「ハンガリーにおけるポスト共産主義時代の国防軍改革」は、体制転換後のハンガリーの政軍関係をめぐる問題点と、NATO加盟によって生じる新たな問題点を論じた。民生重視という伝統的政策との関連、軍の志願制採用とプロフェッショナルイズム強化、NATO加盟国としての任務、など新旧の課題への今後の対処が注目される、という指摘がなされた。

藤森信吉会員の第2報告「アメリカの対ウクライナ政策」では、アメリカの対ウクライナ政策が、そのときどきの国益追求に強く従属するものであること、また米口関係に強く影響されるものであることが指摘され、そのうえで「9.11同時多発テロ」やイラク戦争の影響が論じられた。発表者は、そうした状況の中でアメリカがウクライナの民主化要求を強めていることが新しい要素である、と述べた。

浅村卓生会員の第3報告「現代ウズベキスタンにおける演劇文化と政治」は、ソ連時代ばかりではなく、独立後も高度に政治的な文化政策（この場合は演劇面）がとられていることを指摘しながらも、独立後の政策は内容面でも、実施形式面でもソビエト時代とは大きな変化を見せていることを論じた。

浜由樹子会員の第4報告「トゥルベツコイのユーラシア主義」では、トゥルベツコイという思想家に現れたユーラシア主義を分析し、意義付けると同時に、その思想の現代的意義を再評価しようとする試みがなされた。（宇多文雄）

自由論題・午後の部第2会場の概要

大会2日目の午後、第2セミナー室では自由論題4つのセッションが行われた。それぞれ自己完結型のセッションでもあり、お互いに直接関連性はなかったものの、いずれも現代ロシアの政治社会をとりあつかったテーマであり、また村井淳会員以外の報告者は若手の博士課程後期の研究生でもあり、後者の報告内容は若干荒削りながら、チャレンジ精神旺盛な研究姿勢が窺い知れた。

粟田聡会員の報告「ロシアとEU - 共通経済圏は可能か - 」は、これまでのロシア・EU間の交渉内容を検討し、ロシア経済の、国際基準から見た問題点を指摘していた。大変興味深い研究であったが、本報告では共通経済圏設立に関する政治過程の分析が弱く、またロシア経済にとってWTO加盟の方がより緊急の課題ではなかるうかという意見がフロアからあった。

大塚昌克会員の報告「1989年の東ドイツにおける体制崩壊 - 方法論的個人主義モデルによる説明 - 」は東ドイツにおける体制変動過程を、それぞれのプレイヤーの費用・便益計算に基づきなされた決定の連続として説明し、しかもこのアリーナを保証・脱保証ゲームという観点から説明することも行われた。体制崩壊期に起こる大衆抗議行動の生成・発展を、抗議行動への関与の「臨界量」に達成する力学によって説明する本モデルは、その時空間を問わない応用範囲については懐疑的な意見が多かったが、フロアから多くの質問が出たことは本モデルへの関心の高さを示したと言える。

松本かおり会員による報告「現代ロシア社会の労働観に関する一考察 - 若年層の職業意識の検討を中心に - 」は、これから労働市場へ参入する若者たちの労働観や職業選択行動を、報告者自身によるモスクワとウラジオストクで行った調査結果をもとに、心理学的手法で分析した内容の濃い報告であった。調査方法や調査地域、それに質問の言語上の問題点などにつき討論者から指摘されたが、いずれの質問にも説得力ある回答をし

た。このような社会科学的な現地調査が可能になったロシアは、一見、より魅力的な研究対象地域に見えるが、報告者の並々ならぬ努力が透けて見え、このような実りある研究成果をえたことは賞賛に値する。

村井淳会員の報告「犯罪統計をとおしてみるロシアの社会変動 - ソ連崩壊から 21 世紀のロシア: 1980 年代 - 2001 年 - 」はペレストロイカ期から 20 年間にわたるソ連・ロシアの犯罪統計を通して、犯罪と犯罪人そしてソ連・ロシアの社会変動における特徴を考察し、犯罪発生を減少させるためには経済や税金滞納、福祉の問題を解決することであると結論づけていた。犯罪発生に関するこれまでの綿密な統計資料をもとに分析した成果は他分野の社会科学的研究にも参照研究として広く利用できるであろう。

以上 4 つの報告の概要であるが、各々の持ち時間が厳しく制限されていたにもかかわらず、内容の濃い討論が展開され、実入りの多いセッションであった。(皆川修吾)

2003 年度第 1 回理事会開催

2003 年 7 月 19 日(土)、上智大学で 2003 年度第 1 回ロシア・東欧学会理事会が開催されました。理事会では、以下の報告および審議が行われました。2003 年度(第 32 回)大会共通論題についての報告、会誌編集委員会報告、会費納入状況および退会者についての事務局報告、日本学術会議関連報告、大学評価委員会評価員候補者についての報告、2003 年度大会自由論題報告者および分科会についての審議、2002 年度決算および 2003 年度予算についての審議、入会希望者の審査、地域研究会連絡協議会・設立大会についての審議。

本理事会で報告された 2002 年度における本人の申し出による退会者は以下の 10 名です(五十音順・敬称略)。飯田健一、井上和雄、大熊秀治、大塚寿一、大畑一人、加藤幸廣、高岡健次朗、竹

下公視、塚本哲也、岩井具宜。なお、この他に 3 年以上会費未払い・無連絡による 2002 年度末の退会者が 6 名、2003 年度末に退会する可能性ある会員が 2 名いることが報告されました。

本理事会で承認された新入会員の氏名および所属は以下のとおりです(申込順・敬称略)。常盤伸(中日新聞東京本社)、保坂哲郎(高知大学人文学部)、菱木勤治、大塚昌克(早稲田大学大学院政治学研究科博士課程在学中)、磯村尚弘(名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程在学中)、森謙介(中部大学大学院国際関係学研究科博士課程在学中)、浅村卓生(東北大学大学院国際文化研究科博士課程在学中)、松本かおり(大阪大学大学院言語文化研究科博士課程在学中)、井上武(神戸大学大学院経済学研究科博士課程在学中)、江頭寛(日本経済新聞社)、井手康仁(慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程在学中)。

新役員決まる

郵便投票による理事選挙

2003 年度は理事選挙の年にあたり、すでにご承知のように、会員による理事選挙のための郵便投票が 6 月から 7 月にかけて実施されました(7 月 15 日締切)。開票は、7 月 19 日(土)、上智大学で開催された選挙管理委員会(委員長・溝端佐登史会員)において行われ、その開票結果は規程に従って代表理事に報告されました。代表理事はその報告を受けて、理事選挙当選者に対し、理事選挙で当選したことおよび当選者による会合を 10 月 4 日(土)に京都産業大学で開催することを伝えるとともに、ロシア・東欧学会ホームページ上に、理事選挙当選者の会員氏名を公表しました。

2003 年度理事選挙において郵便投票により選出された理事は以下の会員です(敬称略、五十音順)。なお、郵便投票では、20 名の理事を選出することになっていますが、今回、19 位が 3 名いたために、役員選出規程第 6 条に従って 21 名の理事が選出されました。

伊東孝之(早稲田大学),岩田昌征(千葉大学),上野俊彦(上智大学),宇多文雄(上智大学),大津定美(大阪産業大学),小澤治子(新潟国際情報大学),香川敏幸(慶應義塾大学),川端香男里(川村学園女子大学),木村汎(拓殖大学),柴宜弘(東京大学),下斗米伸夫(法政大学),末澤恵美(平成国際大学),中澤孝之(長岡大学),沼野充義(東京大学),袴田茂樹(青山学院大学),羽場久シ尾子(法政大学),藤本和貴夫(大阪経済法科大学),松井弘明(大東文化大学),溝端佐登史(京都大学),宮本勝浩(大阪府立大学),横手慎二(慶應義塾大学)

当選者会合における理事の選出

2003年10月4日(土),郵便投票による理事選挙の当選者会合が京都産業大学で開催され,規程に従って,選挙によらない理事19名の選出が行われました。この選出は,所属地域,専門分野,年齢,性別などを考慮して行われ,ただちに総会の承認を求めました。同日,京都産業大学で開催された2003年度総会(第1部)で承認された理事は以下の会員です(敬称略,五十音順)。なお,郵便投票で21名の理事が選出されたので,当選者会合では残りの19名が選出されました。

阿部望(東海大学),冢本博一(名古屋学院大学),五十嵐徳子(天理大学),岩下明裕(北海道大学),岩田賢司(広島大学),上垣彰(西南学院大学),小山洋司(新潟大学),斎藤元秀(杏林大学),左治木吾郎(東京国際大学),角田安正(防衛大学校),中津孝司(大阪商業大学),永網憲悟(亜細亜大学),中村裕(秋田大学),丹羽春喜(大阪学院大学),林忠行(北海道大学),廣岡正久(京都産業大学),福田亘(神戸大学),三井光夫(防衛研究所),皆川修吾(愛知淑徳大学)

代表理事,事務局長,会誌編集委員長の選出

2003年10月5日(日),京都産業大学において,郵便投票により選出された理事およびその当

選者会合で選出され総会で承認された選挙によらない理事による最初の理事会が開催されました。理事会は,互選により,代表理事,事務局長,会誌編集委員長を選出し,ただちに総会に承認を求めました。同日,京都産業大学で開催された2003年度総会(第2部)で承認された代表理事,事務局長,会誌編集委員長,および代表理事に指名された副代表理事は以下の会員です(敬称略,五十音順)。

代表理事:袴田茂樹(青山学院大学),副代表理事:藤本和貴夫(大阪経済法科大学),事務局長:羽場久シ尾子(法政大学),会誌編集委員長:香川敏幸(慶應義塾大学)

会計監事の選出

2003年10月5日,京都産業大学において開催された総会(第2部)において会計監事が選出されました。会計監事に選出されたのは以下の会員です。

斎藤 治子(ユーラシア研究所),中本 信幸(神奈川大学)

2003年度第2回理事会開催

2003年10月5日(日),京都産業大学で2003年度第2回ロシア・東欧学会理事会が開催されました。この理事会は今年度から任期が始まる新理事による最初の理事会でもありました。この理事会では,代表理事,事務局長,会誌編集委員長の選出,新入会員の審議および承認,が行われました。

代表理事,事務局長,会誌編集委員長には,「新役員決まる」の記事にあるように,それぞれ袴田茂樹会員(青山学院大学),羽場久シ尾子会員(法政大学),香川敏幸会員(慶應義塾大学)が選出されました。

本理事会で承認された新入会員の氏名および所属は以下のとおりです(申込順・敬称略)。月出皎司(新潟県立新潟【以下,10ページに続く】)

2003 年度総会で承認された 2002 年度決算および 2003 年度予算

	2002 年度決算	2003 年度予算
収入の部		
前年度繰越金	1,019,520	1,264,659
会費(注1)	2,197,000	1,890,000
個人	2,067,000	1,830,000
正会員	1,962,000	1,680,000
院生会員	175,000	150,000
団体	60,000	60,000
維持会費	32,000	24,000
寄付	267,000	250,000
利息	25	30
雑収入	27,739	20,000
収入小計	2,523,764	2,184,030
総計	3,543,284	3,448,689
支出の部		
大会費	300,000	300,000
年報発行費	937,140	1,000,000
年報印刷費	889,140	1,000,000
レフェリー料(注2)	48,000	0
年報編集費(注3)	0	0
事業費(注4)	20,000	25,000
学術会議費用(注5)	0	40,000
事務局費(注6)	35,604	30,000
事務用品・コピー代	41,335	50,000
会議費補助	653,887	660,000
選挙管理費	0	50,000
会員名簿印刷代	26,070	30,000
通信費	47,049	50,000
郵便振替払込料金(注7)	17,540	30,000
予備費(注8)	200,000	200,000
支出小計	2,278,625	2,465,000
繰越金	1,264,659	983,689
総計	3,543,284	3,448,689

(注1) 2003 年度予算の個人会費額は納入率 80% (正会員 210 人, 院生会員 30 人) で試算.

(注2) レフェリー料は 2003 年度より廃止.

(注3) 年報編集費は, 2000 年度に編集委員会に 100,231 円を前渡し金として支出. 編集委員会では 2000 年度に 13,730 円, 2001 年度に 31,880 円, 2002 年度に 13,040 円を支出し, 2003 年度始めの時点で残額 41,581 円となっている.

(注4) JECREES および 2003 年度からの地域研究学会連絡協議会負担金.

(注5) 学術会議費用 2002 年度分は 2003 年度に支出.

(注6) 事務局費は主として学生アルバイト代.

(注7) 2003 年予算からは, 事務局費に含まれる銀行手数料を郵便振替払込料金と合わせ, 費目名を「郵便振替払込料金」から「利息・手数料」に変更する. なお, 支出であっても「利息・手数料」とするのはローンなどを想定した会計上の原則による.

(注8) 予備費は大会の際に施設使用料などが必要な場合の支出にあてる.

【8ページから続く】女子短期大学)横川和穂(京都大学大学院経済学研究科博士課程在学中),平野寛弥(東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程在学中),川上恭一郎(外務省),平手賢治(名古屋学院大学大学院経済経営政策研究科博士課程在学中),山下智行(神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程在学中)。

2003 年度総会開催

2003年10月4日(土),ロシア・東欧学会第32回大会の場で,2003年度ロシア・東欧学会総会(第1部)が開催されました。総会(第1部)では,同日開始された郵便投票による理事選挙の当選者会合において選出された選挙によらない理事19名の承認,2002年度決算報告,2003年度予算案の承認,会誌編集委員会報告,事務局会務報告,学術会議関連報告,が行われました。

翌10月5日(日)に開催された2003年度ロシア・東欧学会総会(第2部)では,同日開催された新理事による最初の理事会で選出された代表理事・袴田茂樹会員(青山学院大学),事務局長・羽場久シ尾子会員(法政大学),会誌編集委員長・香川敏幸会員(慶應義塾大学)の承認と代表理事に指名された副代表理事・藤本和貴夫会員(大阪経済法科大学)の紹介,会計監事・斎藤治子(ユーラシア研究所),中本信幸(神奈川大学)の選出,が行われました。

年会費,維持会費の納入と ご寄付のお願い

2003年度分の年会費をまだ納入していない方には,この「ロシア・東欧学会 Newsletter No.7」といっしょに郵便振替用紙を同封させていただきました。年度内に当該年度までの年会費の納入をよろしくお願いいたします。

一般会員の年会費は8,000円,院生会員の年会費

は5,000円となっております。なお,年会費と同額の維持会費あるいはご寄付のご協力をお願いできれば幸いです。

また,お手数ですが,郵便振替用紙の通信欄の所定の場所に,必ずお支払いになる会費の年度をご明記ください(滞納のない会員は「2003」とご明記下さい)。維持会費にご協力いただける場合には,口数と金額(1口で8,000円となります)を,ご寄付にご協力いただける場合には,ご寄付の金額を所定欄にご記入ください。住所・電話番号・氏名欄も忘れずにご記入下さい。なお,所属先などの変更がございましたら,通信欄の余白にご記入下さい。

また,2000年度から2002年度までの会費の未払い分のある方につきましては,別途,何年度分が未納となっているかについてのお知らせも同封させていただきましたので,その方は,恐縮ですが,未納分もあわせて納入いただけますようお願い申し上げます。

ロシア・東欧学会ホームページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/roto/index.html>
会則・諸規程,役員・諸委員名簿,理事会・諸委員会報告,ニューズレター最新号とバックナンバー,2002年度および2003年度年次大会報告書,お知らせなどを掲載しています。入会申込書のプリント・アウトもできます。また,画面上のボタンをクリックするだけでメール・アドレスを打ち込まずにメール送信ができます。

ロシア・東欧学会事務局

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-2
法政大学市ヶ谷校舎ポアソナード・タワー16階
羽場久シ尾子研究室気付
Tel.: 03-3264-9358; Fax: 03-3264-9968
E-mail: kumikoh@i.hosei.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/roto/index.html>
(ニューズレター作成: 広報担当理事 上野俊彦)